

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	指定放課後等デイサービス こどもデイサービス ひまわり		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 10日		～ R6年 11月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	R6年 12月 1日		～ R6年 12月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 1月 15日		

○ 分析結果

事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
個別に合わせた専門的療育。 強度行動障害の方に対する受け入れと療育支援。	相談や他事業所との情報交換・こども部会主催の研修には積極的に参加している。 コロナ禍によるきっかけで一時中断しているが、外部とのSV研修の企画を継続していきたい。	子供たちが大人になる時だけでなく、日頃から生活介護や入所などとの情報交換を密にし、スムーズなライフステージの移行が行なえていければよいと感じる。 達菜会での独自の事例発表会・検討会などが開催できればよいと感じている。
モニタリングなどを含めた保護者との距離感は良く、情報交換をしやすい事業所。	保護者との情報交換が密に行えるように引継ぎなどは詳細にお伝えできるようにしている。	コロナ以前には餅つきなどの行事を通して、交流の場を設けることができていた。年に1回程度、保護者との茶話会などの行事に取り組んでいければよいと感じている。親の悩みを共有し、できる部分は支援に落とし込むことに繋げていければより、本人を中心とする円は広がっていくのではないだろうか。
理学療法士による専門的療育支援。	支援が行き届くことを意識しながら、専門的体制を整え、支援を実施している。 また、他職員も含めて専門性の向上を目指し、PTが説明を行なう。	PTとしての視点をより意識的に周知していく必要性を感じている。根拠に基づき支援を実施できているかを客観的に考察しながら、支援を深めていきたい。 事業内での勉強会を積極的に回っていく。

事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
整理整頓が不十分であること	現在使用していないものなどが、長期にわたり保管してあること。	風通しの良い事業所をより目指していくためにも、物が溢れかえっている事業所は、改善していくべきである。日頃から環境面においても営繕管理をしていきたい。
個別・集団や場面場面に適した環境をつくること。	人数が足りないとの意見があるが、制度上の人数は十分に満たしている。また稼働率を考えると、改善していく余地はあり、全職員が意識することが大切。限られた環境・人員ではあるが、その中で何ができるのか、できないのかを精査し、チームワークの取れた環境の中で支援を円滑に行えていければよい。	再度バランスの取れたチーム編成を組むことを検討していく。異動してきた職員が多くおり、慣れも必要だと思われるため、時間をかけつつ対応を行なっていく。
チーム内での情報共有について	特に長期休みなどは朝からの利用があるため、会議での共有を図る事が難しいため課題である。しかし、その中でも時間を取れることもあるため、数分でも有効活用を行ないながら振り返りや改善点の共有などを行っていききたい。	各棟リーダーと児童発達管理責任者を中心に、ある程度の大枠を決め、細かい部分をメンバーで話し合うことができれば、より有意義な共有・課題の発見ができるのではないかと感じている。ただしトップダウンという認識ではなく、あくまでも基礎の部分の固めていくという意味である。
安全計画について	安全計画については、BCPを作成し、それに基づいて行動するように指示を出している。	今年度は大規模災害(南海トラフ)に備えての防災訓練を達菜会全体として実施した。この訓練を継続的に取り組んでいければ良い。また、日頃の避難訓練(火災・浸水等)を通して、避難バックの購入などの対策に講じている。